

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671400143
法人名	社会福祉法人 長和会
事業所名	恵光園グループホーム さくらの里
訪問調査日	平成19年8月10日
評価確定日	平成19年9月10日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4 6 7 1 4 0 0 1 4 3
法人名	社会福祉法人 長和会
事業所名	恵光園グループホーム さくらの里
所在地	垂水市本城217番地 (電 話) 0994-32-1881
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 19年 8月 10日

【情報提供票より】(19年 7月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 9月 12日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 18人
職員数	13人 常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	木造防火サイディング貼り 造り 1階建ての 1階 ~ 1階部分
------	------------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	290円
	夕食	290円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(7月 20日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	4名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.9歳	最低	70歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふくまる皮フ科クリニック 桑波田診療所 垂水温泉病院 川畑歯科医
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名前の通り、周囲をたくさんの桜で囲まれたこのホームは、春になると花見の名所として地域住民の憩いの場となっている。併設する特別養護老人ホームで長年培ってきた認知症ケアに対するノウハウを活かし、住み慣れた地域でその人らしい生活を続けることができるように、管理者、職員が一丸となり入居者と共に支え合いながら暮らしている。職員は、ホーム内で実施される月1回の研修以外にも、母体法人内で行われる研修や資格取得のための勉強会にも積極的に参加し、スキルアップを図ると共に、認知症ケアの質の向上に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ホームに閉じこもらない生活の支援については、散歩、ドライブ、花見、つわ取り、買い物など積極的に外出する機会をつくっている。また、ホーム内に菜園を造り、入居者の皆さんに土作りから収穫まで関わってもらい、なるべく戸外に出られるように支援している。その他の項目に関しても全員で話し合い改善に向けた取り組みが行われている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価及び自己評価を通じ、管理者及び職員の意識改革が図られ評価を活かした改善が行われている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、ホームにおける取り組みの様子や入居者の状態等が報告されるとともに、参加者との意見交換が行われ、サービス向上に繋げている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪時、ご家族から直接意見・要望が伺えるように、日頃からの雰囲気づくりに配慮している。さらに行政その他外部機関の苦情受付窓口を、重要事項説明書に明示している。出されたご意見要望に関しては、ミーティング等で話し合い対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者の状況を勘案すると、地域活動に積極的に参加することは困難な方が多いが、併設の特別養護老人ホームを中心に、近隣の人々が集まる行事を多数開催しており、それらに参加することで地元の人々との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの個性と尊厳を大切にしたホーム独自の理念がつけられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のスタッフ会議において、全員で方針と理念を唱和し共有している。また、日々のケアにおいて、その人らしく自分の持っている力を発揮できるように、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者の状況を勘案すると、地域活動に積極的に参加するのは困難な方が多いが、併設の特別養護老人ホームを中心に、近隣の人々が集まる行事を多数開催しており、それらに参加することで地元の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価及び自己評価を通じ、管理者及び職員の意識改革が図られ、評価を活かした改善が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームにおける取り組みの様子や入居者の状態等が報告されるとともに、参加者との意見交換が行われ、サービス向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者を個別に訪ねることは少ないが、運営推進会議開催に合わせてお互いに時間をつくり、話をする機会を設けてサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームを直接訪れるご家族に対しては来訪時に各種報告を行い、遠方にお住まいのご家族へは電話や郵送(園便り、金銭出納帳の写し等)にて適宜報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時、ご家族から直接意見・要望が伺えるように、日頃からの雰囲気づくりに配慮している。さらに行政その他外部機関の苦情受付窓口を、重要事項説明書に明示している。出されたご意見要望に関しては、ミーティング等で話し合い対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員による継続したケアが受けられるように、異動や離職が最小限になるよう努めている。但し、諸事情により急な離職等が発生した場合でも、関連施設からの異動により十分な力量を有する職員を充てるなどして、入居者へのダメージを最小限にすべく配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を聞きながら、計画的に職場内研修を実施している。また、資格取得にも積極的に対応し、現在介護福祉士の資格取得に向けた研修(母体法人が実施)を3名の職員が受講するなど、職員を育てる取り組みが行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内の交流は盛んに実施されているが、他の同業者との交流はあまり行われていない。	○	ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等、同業者との交流を通じたサービスの質の向上に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族にホームを見学していただき、安心して、納得した上で入居開始となるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除、洗濯などの家事や農業、大工の経験を日々の生活に取り入れている。その中で、職員が入居者から色々教えていただく機会をつくることで、共に過ごし支え合う関係を築くように取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントをできるだけ詳しく行うことで、それぞれの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。また、入居後の日々の暮らしの中で、本人本位のケアとなるように、ご家族や職員間で意見の共有に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人やご家族の希望、意見を中心に、日頃生活を共にしている職員の意見も反映させながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しに加えて、入居者の状態に変化が見られた時などには随時、入居者本人やご家族の意向を踏まえてカンファレンスを開き、計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医との連携を密にし、必要な医療処置を受けることでホームでの生活を継続したり、併設の特別養護老人ホームと連携しながら地域の方々との交流を図るなどの取り組みを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びそのご家族の希望するかかりつけ医による、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、本人及びそのご家族の希望を確認している。状態に変化があった場合には、その都度確認を行い、入居者本人及びそのご家族の希望にそえるように、かかりつけ医と話し合いながら支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営理念において「一人ひとりの個性と尊厳を大切にしたい」と謳うなど、ホームとして特別の思いで取り組んでいる。また、個人情報に関しても厳正な取り扱いが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先させないことは勿論、アセスメントにおいて把握した入居者の情報をもとに、入居者の希望にそった生活を送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員でメニュー会議を行い、入居者の希望を毎日の献立に取り入れるように心がけている。入居者自ら料理を作られたり、下ごしらえや配膳、後片付けなどを協力して行っている。またそば打ちをホーム内で行い、食に対する楽しみを引き出すような取り組みも実施している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、火・木・土曜日の入浴及び、週1回日曜日の入浴を原則として清潔保持に努めているが、その日の状態、入居者の希望によって柔軟に対応している。入浴の際に音楽を流すなど、入浴を楽しめるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で役割を作り、一人ひとりが楽しく生きがいのある毎日を送れるように支援している。また、気分がすぐれず、帰宅等を望まれる時は、自宅までドライブするなど気晴らしの機会をつくっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前と午後、毎日2回の散歩を日課として実施する以外にも、定期的にドライブや買い物などの外出を行い、ホーム内だけに閉じこもることがないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	他の入居者が居室に入りトラブルになることがあるため居室に鍵をかける場合があるが、日中玄関に鍵をかけることなく、開放的な空間が提供できるように配慮されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム単独で行う避難訓練の他に、隣接する特別養護老人ホームとの合同避難訓練もを行い、災害時に適切に対処できるようにしている。また、日頃からイベントの際、民生委員や振興会長、地域の人々に災害発生の際、協力をしていただくよう働きかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホーム内で作成した献立を特別養護老人ホームの管理栄養士に確認してもらい、バランスの取れた食事が提供できるように配慮している。また、食事摂取量も大まかに毎食チェックしている。水分は確実に摂取できるよう支援しているが、記録がなく職員間での情報の共有が行われていない。	○	一人ひとりの水分摂取量を記録し、職員間で確実に情報が共有できるよう取り組んでいただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節の飾り付けを行い、ソファや畳のスペースを設けることで気の合った仲間とゆっくり過ごせる空間作りができています。また、夜間に足元灯をつけ、明る過ぎず、しかも安全に夜間移動ができるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物の持ち込みの他、息子さんの描いた絵や亡くなったご主人の写真を居室に飾るなど、居心地よく過ごせるよう工夫している。		